

## 地域主導による防災力強化の支援 ―岐阜県中津川市におけるエクスカージョンの取り組み―

国土交通省 多治見砂防国道事務所 今井 一之、鈴木 茂正  
NPO 法人 砂防広報センター 中矢 弘明、○池田 一平

### 1. 活発な自主防災活動～岐阜県中津川市～

岐阜県北東部にある中津川市は恵那山の扇状地上にある約 676 ㎥の広大な面積に約 84,000 人が暮らしている。国による砂防事業が着手される契機となった『四ツ目川災害』（昭和 7 年 8 月 26 日）が発生した場所としても広く知られ、本年度で災害発生から 79 年目を迎えるが、地域の防災意識は風化することなく、地区長を中心とした自主防災組織が活発に活動を行っている。その下支えには、関係機関からの災害対策協議会設立などの働きかけを真摯に受け止め、四ツ目川災害の日を『治山・治水の日』に制定、「講演会」の開催などを継続してきた中津川市の尽力があるが、現在に至るまでその活動を継続し、生活の一部に組み込んできた市民の高い防災意識と努力こそが、この自主防災活動の源であると考えられる。

平成 22 年 8 月 26 日の『砂防講演会』では尾鳩地区長より「地区独自の土砂災害に特化した防災マップ」、「砂防施設の清掃・点検」など全国でも傑出した取り組みが紹介された。例年、『治山・治水の日』当日の午前中には各地区に建てられた「水神」に市長はじめ市の職員・地区長などが集まって地域の安全を祈念することが慣例となっている。（写真 1）



写真 1 毎年、中津川市内で行われている神事

中津川市にはこのような「水神」が随所に見られ、中には、『四ツ目川災害』の際に「水神」を頼りに避難したところ九死に一生を得た という逸話を持っているものもあり、その形状も様々である。（写真 2）



写真 2 中津川市内に多数祭られている「水神」

活発な自主防災活動を誇る中津川市においても、高齢化は避けられず、地域の催事への参加者も減少する傾向にあることを危惧した中津地区災害対策協議会の地区長らから“これらの「水神」にまつわる言い伝えを通して、災害の歴史などを地域の若い世代にも語り継いで行きたい”という相談を当事務所に持ちかけられたことがエクスカージョンに取り組みきっかけとなった。

### 2. 地域の防災文化を継承・発信する為の取り組み ～エクスカージョン～

「エクスカージョン」は、もとより地理・地質・土木学といった現地踏査を重視する学問分野の教育プログラムとして導入され、現在は、国内外の会議や学会、社会人研修、環境学習、生涯学習などの教育旅行を指す。中部地方整備局管内では流域住民に地域の環境を理解頂くための小旅行として河川部局を中心に推進が図られてきた。訪れた人々に地域の人が地域そのものについて説明することが「エクスカージョン」の大きな要素である。当事務所でも、豊かな自然に恵まれながら若者離れの進む木曾谷で地域防災力の向上と地域振興を目的として木曾川上流域の市町村との協働で『木曾谷エクスカージョン』を企画・試行を行ってきた実績があり、この手法を中津地区災害対策協議会に示したところ、大いに関心を寄せて頂けた為、以降、「エクスカージョン」の第一人者 九州大学大学院工学研究院 清野聡子教授を招き、勉強会を開催。地区長・市職員と多治見砂防国道事務所中津川出張所が市内の災害遺構や砂防施

設などを巡るエクスカーションコースの視察・検証を行い、平成22年11月にエクスカーションを試行することを決定し、8月の『砂防講演会』で市民に参加を呼びかけた。

### 3. 地域による『中津川エクスカーション』の試行

平成22年11月21日(日) 中津地区防災対策協議会が主催となり、初めての『中津川エクスカーション』が、地区内外からスタッフを含む220名が参加して開催された。中仙道を通学域とする中津川西小学校6年生も、地域学習の成果を発信する説明役として参加した。

当日のルートは中津川市内を中山道に沿って歩いた後、バスで四ッ目川上流に整備された『四ッ目遊砂工』、地域の史跡『苗木城』を見学するコースとなった。エクスカーションの発端となった「水神」の研究は現在も継続して調査が行われている最中で、ある程度整理されれば、今後は見学のポイントとして加わっていくものと考えている。

内容・評価としては、小学校が参加したことで地域に関する話題、特に中仙道を中心とした町のつくりや当時の暮らしぶりの紹介がふんだんに盛り込まれた。そして、児童が説明することで説明役・聞き手のそれぞれに程よい緊張感が生まれ、それが全体により影響を与えていたと思われた。また『四ッ目川災害』については当出張所が、『苗木城』から見える山の名前や特徴、断層などについての説明は専門知識を有している中津川市職員が担当・説明を行ったことで、市民の理解も深まった様子であった。中津川市民であろう参加者からも地域に関する質問が活発に出されていたことが印象的であった。(写真3)



写真3 小学生の説明に耳を傾ける参加者

### 4. 「エクスカーション」に関する考察と砂防の役割

今後の全国における「エクスカーション」の推進・定着に向けて重要事項等について整理する。

#### 4-1. 市町村の多数の部署とプロジェクトを組む。

中津川市のように住民側から「エクスカーション」に取り組みたいという申出があるケースは全国的にも稀であろうし、多くは防災力向上のひとつの施策として砂防部局側から市町村・地域に対して働きかけを行うこととなると考えられる。その際、市町村の防災担当部局を通じ、教育委員会や観光担当課など、交流する機会の少ない部署との協働に留意する必要がある。試行でも小学生が説明役となったことで参加者に聞く態度が生まれ、小学生も学習成果の発信機会があったことで、学習自体に緊張感が生まれた。地域防災力の向上には今後の積み重ねが必要であるが、小学校に“達成感”を感じるものの出来る新しい学習スタイルを提案できたと考えられる。

まずは、このような小さな成果を確実に生み出して行くことで市町村全体の「エクスカーション」への意欲を継続させていくことを重視し、防災にこだわらず、幅広く地域のためになる取り組みと位置づけていくことがまずは重要である。

#### 4-2. 防災上は実施よりプロセスが重要

試行ではコースに加えることが出来なかったが、中津川市の「水神」など、防災とかかわりの深い風土・史跡などは資料も少なく、言い伝えなどを地道に集めて主催者が一体となって発信用のコンセンサス(説明用の台本など)を作成していくことが重要である。土砂災害のメカニズムや豪雨時など取るべき適切な行動なども、地域の住民にこのような知識がある上に、地域に適合した表現開発などの工夫があつてこそ浸透させることが可能となるものと考えられる。「エクスカーション」は実施よりもむしろ地域の解説者を育成すること(すなわちプロセス)が重要で、その育成こそが地域の防災力向上につながる。

#### 4-3. 砂防の役割

砂防は地質・地形、力学などを総動員して土砂移動抑制に資する行為でもあるが、地域の地形や地質に関する知識は地域活性化の重要な資源でもある。

我々は、地域防災力の向上に資するため、ソフト対策の一環として、今後も引き続き地域の人々の知識集積、情報発信に積極的に関わっていきたい。